

文科省の宇宙開発連携協力推進室の藤田和重室長が資料 30-2(ICG 会合の結果)を説明した後、下記の質疑応答があった。(ICG は国連 COPUOS が設立した会合で、衛星測位システムの提供国も積極的に参加している。多数現存し新規の計画もある中、コンパティビリティの確保など、安定したサービスの提供に関する議論が行なわれた。周波数割り当て以外はバイラテラルで交渉してきたが、今後は此の会合を利用し、マルチラテラルで進められることに大いに期待している。)

松尾:全体会合の最初のところに「当方より会合への期待を述べた。」と有りますけれど、具体的には何を期待されたんですか。

藤田:こちらは実は外務省が取り纏めた対処方針があり、正に最後に私が申した様な、総合運用性とか、共存性を皆で確保して行くためにはどういう、マルチの場が立ち上がっているのを評価するといったような主旨のことを申し上げました。

青江:今日時点に於きまして、我が国は正に、カレントもフューチャーもプロバイダも無い状況<sup>1</sup>なんですよ。大変不幸な状

---

<sup>1</sup> 準天頂で補正データを送る事業が安定供給できれば、プロバイダの一員なのではないか。勿論、4基の準天頂衛星が常時視野に入るように、数を増やせるようになれば、地域限定の測位システムとして完結する。明らかな計画は持ち合わせていないが、潜在的なプロバイダと言って良いのではないか。又、現にプロバイダフォーラムには出席しているのではなからうか。

況だと思っんですけど<sup>2</sup>。其の状況でこう云う会合が開かれて、其れこそ仕方がないから文科省や JAXA が出て行ったと、こういった処だろうと思いますけどね、其れは実情しょうがない。ですけれども、此処にあるようなことを議論するような場というのは大変重要な場なんだと思っんです。正に我が国の大変重要なインフラのうちの 하나가、どういう形になって行くのかと云う事に関わってくる問題ですから、大変重要。ですから、プロバイダが居ないんですから、其れを先行きのプロバイダに繋ぐ様に、ちゃんと対応しなきゃいかん訳ですよ、其れだけの重要マターはですね。其れを考えると、どうも準備不足と云う風に言わざるを得ない<sup>3</sup>と思っんです。ですから、先程仰られたように、次回会合にはき

---

<sup>2</sup> 説明が無いので、何が不幸なのか解らない。測位が重要なインフラで、其れが自分で持てないことを言っているのか。アメリカと事情が違うことを考慮されてないのではないか。米軍は世界展開しており、世界中で GPS を利用できることは重要である。日本は領土内だけで測位ができればいいので、国際コンソーシアムで持つようにするとか、準天頂で地域限定にするとか、工夫が必要である。

<sup>3</sup> 此れも説明が無いので、何処が準備不足か解らない。参加者に「準天頂協力 4 省」と云う点だけの指摘であるなら、この場は「技術的に重要な事項について議論する」と定義しているのであるから、JAXA が全てを掌握できている筈である。集まっている国々が、測位システムを「覇権を取るための手段」と考えるような国々で無ければ、政治・外交の専門家の出席は不要で、良心的な技術者の集まりであって良いのではないか。

ちんとした対応をするようにして貰いたいと。まあ、一案ですけれども、少なくとも準天頂協力4省ですか、其の辺は巻き込む必要があるんじゃないかと、云う気も致しますしね。其れが一つと。其れは其れで勘案頂きたいと云う事なんです。一点お聞きしたいのは、プロバイダフォーラムの開発のところ、別紙の方の資料ですけれどね、プロバイダのサービスの提供方式、で、こんな風なことが議論された、この辺で、例えばオープンサービスのあれに対しましては、「信号やシステムについては公開し、」メーカーにはちゃんとスペックを提供しましょうと、云う、所謂無差別で公表しましょうと、云う風なことに対して、どう言いましょうか、皆素直にスーッと行ったのか、どんな感じだったのかなあと<sup>4</sup>。必ずしも、この中身を見ると、例えばGPSのプロバイダはそんなに、こんなことですんなり行っていいのかなあという風なことも書いてあるんですけどね。それはどんな感じだったのかしら。非常にスムーズにこんな風な方向で議論が纏まりつつある。と理解して良いんですか。

藤田:そうですね。中には一寸難しい処が有るんですが、事実関係的には、何れもこの原案はアメリカが議長をやって居りまして、アメリカから提示されまして、時間の制約もありまして余り深い議論は無かったもので、原文の書き方は「こう云うことを今後エクザミンして行くべきである」と言うのは、決定

調ではなく、今後検討して行くべきであるという様な書き方でしたので、誰かが強く反対するという感じでもなく、「こう云う事は確かに論点としては大事ですよ。」と云うような様子で、議論が。

青江:ギャランティの概念について検討すべきというのも、言ってみればアメリカ提案みたいなものなんですか。

藤田:ええと、まあそう云う風に考えて頂ければと。

松尾:はい。後何か御座いますか。宜しゅうございますか。はい、どうも有難う御座いました。用意した議題、以上で御座います。

<sup>4</sup> 何を根拠無く疑っているのでしょうか。過去に、湾岸戦争のときに、ヨーロッパでGPSによる測位が混乱したことがある。それを言っているのか。